

世界最大のハイブリッド・プラネタリウム！

—愛媛県総合科学博物館—

二神千佳・小林真吾

〈愛媛県総合科学博物館 〒792-0060 愛媛県新居浜市大生院 2133-2〉

e-mail: hutagami_c@i-kahaku.jp e-mail: kobayashi-shingo@pref.ehime.jp

1. 愛媛県総合科学博物館について

円錐形のエントランスホール，立方体を組み合わせた形の展示棟，三日月形の生涯学習棟とレストラン棟，球形のプラネタリウム棟。世界的な建築家・黒川紀章氏によって設計された近未来を予感させる建造物群からなる愛媛県総合科学博物館には，平成6年11月の開館以降，科学館機能だけではなく現代建築の作品として観覧する目的での来館者も少なくない。開館から15年を経て，昨年3月15日には累計入館者数300万人を達成した。そして平成21年4月1日からは民間企業ならではの発想と小回りの利いた運営で博物館を活性化することを目的として指定管理者制度が導入され，管理運営部門をイヨテツケーターサービス株式会社が受託することとなった。運営初年度の目標入館者は20万人を見込んでいるが，夏季開催の特別展が好評だったこともあり，昨年末で目標値を達成するなど，その滑り出しは順風満帆である。

2. プラネタリウムの運営

指定管理者制度の導入により，プラネタリウムの運営体制にも変化があった。従来は自然系の学芸員がソフト選定や投影，保守点検など運営全般を担当してきたが，日常の投影業務が指定管理側に移行され，学芸サイドは機器の保守面で協力することとなった。現在は指定管理サイドのスタッフ4名で日常運営を行っているが，その運営も当初は簡単なものではなかった。これまで当館の投影機は比較的トラブルが少ないと言われていたの

だが，さすがに15年もの間，休むことなく働き続けてきている投影機も悲鳴を上げ始めていた。運営が切り替わった当初は，プロジェクターの電球切れ程度の軽症で済んでいたのだが，その後は，経年劣化に伴う故障が発生した。例えば制御系の異常で機器が誤作動したり，漏電の影響でプロジェクターの電源供給が不安定になったり，スピーカーからノイズが聞こえてきたり…と枚挙に暇がないが，いずれも長年運転した機器ではお馴染みの症状であろう。これらのトラブルはメカニズムまで手が届かなかったスタッフを大いに慌てさせたが，そのお陰で，わずかに数カ月間でプラネタリウムの奥深い部分まで知ることができたのではないかと思う。

3. 世界最大のハイブリッド・プラネタリウムへ

そんな当館のプラネタリウムはドームの直径が30mあり，1996年版のギネスブックにも世界最大のプラネタリウムとして掲載されたことをご存知だろうか。そして現在，この「世界最大のプラネタリウム」は「世界最大のハイブリッド・プラネタリウム」へと進化するべく，リニューアル改修中なのである。昨年まで15年間働き続けた光学式投影機，五藤光学研究所製「GSS-HELIOS」は，今回の更新によって同社が誇る最高性能の光学式投影機「SUPER-HELIOS」へと生まれ変わる。これにより再現される恒星の数が飛躍的に増え，世界最大のドームに映し出された星空は，現実で見る星空より近いものになることだろう。



世界最大のドーム径をもつプラネタリウム。

さらに、新たに全天周デジタル映像システム「バーチャリウム II」が加わり、ハイブリッド・プラネタリウムへと進化する。すでにご存知の方も多いと思うが、ハイブリッド・プラネタリウムとは、光学式プラネタリウムや全天デジタル映像システムが渾然一体となって体系化された、五藤光学研究所が生み出した独自のシステムのことである。写真やイラストを1点ずつ投影していたスライドプロジェクターが姿を消すのは時代の趨勢であるが、時の流れとともに洗練された機器構成・システムへと生まれ変わることもまた、天体の輪廻転生に通じるものがあると思う。

4. 天文普及事業

当館ではプラネタリウム以外にも天文普及活動を実施している。特に注目に値するのは、博物館友の会活動の延長として、天文に興味をもっている会員が集まった天文クラブの存在である。月に1度の例会を基本として、友の会天体観望会の企画や運営などの活動を行っている。ゴールデンウィークやお盆などの繁忙期には、観望会以外の日は非公開となっている天文台や観測機器を見学するイベントとして、公開天文台を行い、好評を博している。また昨年の部分日食では、クラブのメンバーが中心となって観望イベントを実施し、約1,100人の参加者に刻々と欠けていく太陽を見てもらうことができ

た。日食グラスが足りなくなるという事態もあったが、無事に観望会を行うことができたのは、ひとえにこれら天文クラブの献身的な活動の賜物である。新しくなるプラネタリウムと天文クラブが出会うことで、どのような新しい取り組みができるのかと、考えるのが楽しみである。

5. さいごに

今回の機器の更新でわれわれが大きな期待を寄せている点の一つに、投影卓の操作性が高まり飛躍的に扱いやすくなることがある。今後は生解説のみならずさまざまなイベントを企画し、プログラムのラインナップを充実させようとスタッフ一同意気込んでいる。「愛媛」と言えば「みかん」というイメージが強いが、「みかん」に負けることなく「愛媛」と言えば「プラネタリウム」と言われるよう、頑張っていく所存である。この小文を契機として、まるごと生まれ変わる愛媛県総合科学博物館のプラネタリウムに足を運んでいただくと幸いである。

愛媛県総合科学博物館

Ehime Prefectural Science Museum

愛媛県新居浜市大生院 2133-2

Tel: 0897-40-4100 Fax: 0897-40-4101

<http://www.i-kahaku.jp/>

開館時間 午前9時～午後5時30分まで

休館日 月曜日

※ただし、毎月第一月曜日は開館し、その翌日の火曜日を休館

※月曜日または第一月曜日の翌火曜日が祝日の場合は、直近の平日が休館日

アクセス 松山自動車道いよ西条I.C.より5分せとうちバス 西条～中萩～新居浜 総合科学博物館下車

JR 新居浜駅、JR いよ西条駅からタクシーで15分